

〔M E P 乳 剤〕

農林水産省登録 第13410号

性 状：乳白色泥状粘稠液体

毒 性：普通物

# ガットサイド® S

危 険 物：－

有効年限：3 年

包 装：1kg×12本、5kg×2缶

有効成分：M E P .....1.0%

殺虫剤分類 1B



「住友化学農業ガイド」の見方：i-農力サイトの「製品情報」、「農業ガイドを見る」から、「農業ガイドの見方」をご覧ください。  
本剤の最新情報：こちらのQRコードを読み取るとi-農力サイトに掲載されている本剤の最新情報がご覧になります。

## 〔適用と使用方法〕

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用用量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
みかん	ミカンナガタマムシ	1(原液)~1.5倍	—	5月~6月 (成虫発生期直前) 但し90日前	本 剤：1回 M E P：5回 (樹幹処理は1回)	直径3cm以上の主枝、 垂主枝、側枝に塗布
		1.5倍	100~1000 ml/樹	直径3cm以上の主枝、 垂主枝、側枝に散布		
	カミキリムシ類	1(原液)~1.5倍	—	6月~7月 (産卵初期~ 産卵最盛期直前) 但し90日前		樹幹の地際部から約30 ~40cmの高さまで塗布
		1.5倍	100~1000 ml/樹	樹幹の地際部から約30 ~40cmの高さまで散布		
なつみかん	ミカンナガタマムシ	1(原液)~1.5倍	—	5月~6月 (成虫発生期直前) 但し120日前	本 剤：1回 M E P：3回 (樹幹処理は1回)	直径3cm以上の主枝、 垂主枝、側枝に塗布
		1.5倍	100~1000 ml/樹	直径3cm以上の主枝、 垂主枝、側枝に散布		
	カミキリムシ類	1(原液)~1.5倍	—	6月~7月 (産卵初期~ 産卵最盛期直前) 但し120日前		樹幹の地際部から約30 ~40cmの高さまで塗布
		1.5倍	100~1000 ml/樹	樹幹の地際部から約30 ~40cmの高さまで散布		
りんご	カミキリムシ類	1(原液)~1.5倍	—	6月~7月 (産卵初期~ 産卵最盛期直前) 但し30日前	3回	主幹地際部から約50 cmの高さまで塗布
		1.5倍	100~1000 ml/樹	主幹地際部から約50 cmの高さまで散布		
	シコクアナアキゾウムシ	1(原液)~1.5倍	—	5月下旬~6月下旬 (産卵期)		主幹地際部から約50 cmの高さまで塗布
		1.5倍	100~1000 ml/樹	但し30日前		主幹地際部から約50 cmの高さまで散布
もも	コスカシバ	1.5倍	—	30日前	本 剤：1回 M E P：6回 (樹幹処理は1回)	樹幹部及び主枝に塗布
			100~1000 ml/樹			樹幹部及び主枝に散布
ぶどう	コウモリガ クビアカスカシバ	1(原液)~1.5倍	—	幼虫喰入期直前 ~喰入初期 但し21日前	本 剤：2回 M E P：4回 (#1)	主幹部に塗布
		1.5倍	100~1000 ml/樹	主幹部に散布		
かき	ヒメコスカシバ カキノキマダラメイガ	1.5倍	100~1000 ml/樹	産卵期~ 幼虫喰入初期 但し45日前	本 剤：2回 M E P：3回 (樹幹処理は2回)	主幹部、主枝及び垂 主枝の分枝部に塗布
						主幹部、主枝及び垂 主枝の分枝部に散布

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
いちじく	カミキリムシ類	原液	—	4月～7月 但し7日前	3回	株元から結果母枝まで塗布
	アイノクイムシ	1.5倍		100～1000 ml/樹		4月～9月 但し7日前
			主幹部に散布			
くり	クイムシ類	1(原液)～1.5倍	—	3月～5月 (産卵初期)	本剤:1回 MEP:4回 (樹幹処理は1回)	樹幹の地際部から約1.5mの高さまで塗布
		1.5倍	100～1000 ml/樹			樹幹の地際部から約1.5mの高さまで散布
	コウモリガ	1(原液)～1.5倍	—	裂果前まで 但し90日前		樹幹の地際部から約1.5～2mの高さまでの主幹及び主枝に塗布
		2倍	100～1000 ml/樹			樹幹の地際部から約1.5～2mの高さまでの主幹及び主枝に散布
なつめ	カミキリムシ類	1(原液)～1.5倍	—	30日前	1回	樹幹部及び垂主枝に塗布
		1.5倍	100～1000 ml/樹			樹幹部及び垂主枝に散布
くるみ	コウモリガ	原液	—	7日前	2回	樹幹の地際部から約1.5mの高さまで塗布

#1: 収穫終了後から萌芽までは2回、萌芽後は2回



## 効果・薬害等の注意



- 使用量に合わせて秤量し、使いきる。
- 使用した刷毛をそのまま放置すると薬液の固化とともに毛の部分が堅くなるので、使用直後に水で十分洗う。
- アルカリ性薬剤との混用はさける。
- 使用に際しては、果実に付着しないように十分に注意する。
- 本剤を産卵、喰入防止に使用する場合は残効性は短く、使用時期を失すると効果が劣るので、適期にむらなく、ていねいに使用するよう注意する。  
柑橘のカミキリムシ類、りんごのカミキリムシ類防除には6～7月の産卵最盛期直前、くりのクイムシ類防除には芽出し直前(産卵初期)、りんごのシコクアナアキゾウムシ防除には5月下旬～6月下旬(産卵期)が使用適期である。
- 雨天や降雨の前後の使用は効果が劣るのでさける。
- 薬液が葉にかかると薬害を生じるおそれがあるので、かからないように散布する。特に新葉時期は薬害が生じやすいので散布は注意する。
- あぶらな科作物を初め、作物の茎葉には薬害を生じるおそれがあるので付近の作物にはかからないように注意して使用する。
- 適用表に記載された所定の部位に薬液が十分付着するよう、ていねいに処理する。
- もものコスカシバ及びびかきのヒメコスカシバ、カキノキマダラメイガに対しては産卵防止効果及び喰入防止を主体に春～秋の産卵期～幼虫喰入初期に処理する。  
なお、喰入後の幼虫に対しては使用する場合は、あらかじめ粗皮や虫糞を取除いてから塗布又は散布すると効果的である。  
カキノキマダラメイガは樹幹の分枝部に被害が多いので分枝部を主眼に処理する。
- いちじくのカミキリに対して産卵忌避効果は劣るが、産卵痕に塗布すると効果的である。

- 自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に薬液がかかると変色するおそれがあるので、薬液がかからないよう注意する。



## 安全使用上の注意



- 誤飲などのないよう注意する。
- 本剤の解毒剤としては硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤が有効であると報告されている。
- 眼に入らないよう注意する。  
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。(刺激性)
- 皮ふに付着しないよう注意する。  
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。(刺激性)
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。  
作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
- 直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密封して保管する。

「[農業ガイドの見方](https://www.i-nouryoku.com/prod/search/) (<https://www.i-nouryoku.com/prod/search/> [農業ガイドの見方.pdf](#))」の「3. 注意事項：(1)、(2)、(3)、(4) - G」も合わせてお読み下さい。

## 〔品目特性〕

- 有機リン系殺虫剤です。
- 樹体に塗布または散布することにより、穿孔性害虫の食入や産卵を防止し、また成虫の脱出を阻止する効果があります。